

白藍塾オリジナル

2023年度 入試小論文分析&解答のヒント

2023年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

今年度は、大学での学びや「知」のあり方がテーマとなっていて、その点は従来にあまりなかったパターンかもしれない。資料も、大学教育について論じたミルの古典的な文章や、読書について逆説的に語ったエッセー調の文章など、近年あまりなかったタイプが並んでいる。とはいえ、従来通り、複数の資料を分析・活用しつつ具体的な事例について論じるという設問内容自体はそれほど変わっていない。

問1では、4つの資料から3つを選んで、「大学での学びにおいて重要だと考えるもの」について論じることが求められている。「大学での学び」について問われているので、大学教育について論じた文章①と②を軸に考えるのがやはり正攻法だろう。設問文にも、文章①と②に「どのような共通点、相違点があるだろうか」とあるので、まずはそれを読み取るところから始めるとよい。

すると、個別の学問を究めるよりも、それらを越えた横断的でグローバルな教育を重視している点では共通しているが、前者が「有能で教養ある人間」の育成を目的としているのに対し、後者はあくまで「経済・社会を支え、牽引する人材」、もっと言えば企業の求める人材の育成に主眼を置いている点に大きな違いがあることがわかる。

したがって、どちらかの立場を選んだ上で、対立する立場を批判的に検討する書き方にすれば、設問の条件とうまくかみ合うはずだ。文章③と④は、どちらも目的意識のない義務的な読書(学問)の無意味さを皮肉った内容なので、①と②のどちらの立場を選ぶとしても、自説の根拠の補強としてうまく援用することができるだろう。

問2は、(ア) 社会における「知」の最も重要な要素や役割を示した上で、(イ) 政策の具体的な事例を2つ挙げ、「知」がどのように活かされているか(または活かされていないか)を論じることが求められている。

(ア)については、あまり考えすぎず、(イ)が答えやすいような内容にするほうがよい。例えば、

「社会を多角的な視点から見て問題設定をすること」といった程度で十分だろう。（イ）の政策事例も、自分がよく知っていて、論じやすいものでかまわない。「どのように活かされているか」よりも、「どのように活かされていないか」を論じるほうが、どちらかと言えば書きやすい。例えば、日本の少子化対策について、「子どもを産み育てやすい環境の整備が政策の中心になっているが、少子化の原因を多角的に見れば、そもそも結婚したくてもできない若者が増えているのも一因なので、雇用対策も重要なはず。そうした問題設定のための知が活かされていないことが問題だ」などと論じることもできるはずだ。

事例が2つ必要なので、1つにつき400字程度しか分量がない。そのため、2部構成のA型を2つ重ねる形にするとまとめやすいだろう。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179） <https://hakuranjuku.co.jp>